

断章 旭川のアイヌ語 地名研究

51

高橋 基

今回は、掲載地図と写真①の「ポロレプシペ」(poro-rep-us-pe)大
きい・沖・についている・者＝岩」は、
川中の大岩であるが、何故、レプシペ
(rep-us-pe)沖・にある・者＝岩
と表現されたのか明確にしたい。
明治二十四年に、永田方正(はうせい)は、この
川中の大岩の地名解で、「レプは沖の
義なれども上川アイヌは大河の中を
レプと云ふ。上川アイヌ某云ふ、古へ
此辺は海中なりしを以てレプの称あ
り」と、当時の上川のアイヌの人達の
伝承を記述している。その根元となっ
た伝説を見てみよう。

昭和六年刊行の近江正一著「伝説の
旭川及其附近」の中の「神居古潭の伝
説」を紹介する。これは、天保十四年
(二八四三年)生まれといわれる村山
与茂(むらやま)作長老の伝承を中心にまとめた

ものである。

「ずっと古い昔の事である。其の頃はカムイコタンが、石狩川の河口で太古はあれから下流は海であった。毎日毎日帆掛け船(弁財船)が何隻となく這入つて来ては、石狩アイヌの捕らへた熊、鹿、鷹、狐、鮭、鱒と、珍しい器具と交換したものである。今は石狩川口に住んでゐると伝へられてゐるシヤメカムイ(石狩川に棲息するテウザメ)といふ神様が、神居古潭停車場附近の深い淵に住んで居たが、日のよく輝いた日には、美しい背

旭川のカムイコタン⑧

中を水面に出して居たものであつた。此のシヤメカムイと、山のカムイ(ヨモサク翁は熊の事であると話した)は、非常に仲が良く、一方は水、一方は山で、上川アイヌの守護神として崇められて居た。秋になって鮭が捕れるやうになると、アイヌウタリ(アイヌの人々)は、自分達の食ふ前に、必ず此のシヤメカムイと、山のカムイに捧げたものである。」

この後に、本連載④回でも紹介した、石狩川を丸木舟で遡つてカムイコタンのパラモイ(Para-moy)広い・

大きい・沖・についている・者＝岩」は、伝説では、海の沖にあつた大岩だったのだ、右のように命名されたことがわかるのである。

さて、それでは、カムイコタンが石狩川の河口であつたのが、何故、現在のようになったのか、伝説は次のように続く。

「現在、夫婦岩(めづと)と称せられて、巖石が流れに横たわつて居るが、アイヌウタリは、二チエネカムイ(鬼または化け物)といつて居る。二チエネカムイが、カムイコタンに来て、アイヌ達に魚も捕らせなければ、此の種族も滅ぼしてしまふと暴れ廻つた時に、シヤメカムイが現はれて、大格闘の末に、此の二チエネカムイを殺してしまつた。此の戦で多くの地面を流し、突き進んで陸を作り、現在のやうに石狩川口迄が陸になつたのである。」

写真②が、右の文中で、夫婦岩、または、二チエネカムイと言われた岩群である。現在は、テシ(tes)(岩梁)と言ひ、岩が川幅一杯に梁のようになった状態に命名されたもの。詳細は上流のテシ(tes)(岩梁)で説明したい。(アイヌ語地名研究会幹事)

「ポロレプシペ」(poro-rep-us-pe
右の伝説から、カムイコタンにある

※毎月第1週号に掲載します



現・神居古潭



①ポロレプシペ



②テシ(岩梁)